



発行所
〒924-8544
石川県白山市三浦町500の1
石川県立翠星高等学校内
窓 所
六 星 同 窓 会
印 刷 所
能 登 刷 印 能

創立百四十周年を迎えるにあたって



会 長

大 藏 捷 直

同窓生の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

また、日頃より、同窓会並びに母校の発展のために格別のご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。



校 長

山 崎 恵

新たな時代に求められる農業高校

同窓生の皆様には、ますます、ご健勝のことと、お喜び申し上げます。また日頃より本校の教育にご理解とご支援を賜りまして誠に有難うございます。深く感謝を申し上げます。

さて、今年度は六月に同窓会本部、東海支部、七月に金沢支部、十月に関西支部、そして、十一月に

さて、母校翠星高等学校は、本年創立百四十周年を迎えることになりました。明治九年十二月に、銅器、漆器、陶器、織物、染物、花筵等の技術を教授する「石川県勸業所」に農業実習の指導者を養成する農学科が設けられたのが創始とされております。以来、校名も明治十年に石川県農業講習所、明治十九年に石川県農学校、明治三十四年に石川県立農学校、大正十五年に石川県立松任農学校に改称し、昭和二十三年の学制改革により、農業と普通の課程を置く石川県立松任高等学校と改編され、昭和二十八年に石川県立松任農業高等学校と改称しました。そして、平成十二年に石川県立翠星高等学校に改称され現在に至っております。

設置学科や教育内容については、時代の発展に対応して改編されてきました。本校は来年度百四十周年を迎えます。その歴史を振り返るべく、昭和五十一年の開校百周年の際に編纂された記念誌「松任農業高等学校百年」を幾度も紐解きました。本校は明治九年札幌農学校と同時期に金沢区方勸業所内で開校されました。その後、羽咋郡火内谷、能美郡小松、石川県松任町へとその地を移し、石川県農学校、石川県立農学校、石川県立松任農学校、松任農業高等学校、翠星高等学校と改称される中、農学を学ぶ農業高校としての伝統を継承し時代とともに歴史を重ねてきました。

農業高校では農業及び地域産業を担う人材の育成を目指し、農作物の栽培や動物の飼育を通して知識や技術を身につけるだけでなく、生命の尊さや神秘に触れ、他者への思いやりや優しさなど豊かな心を育てる教育を行ってきました。また農業学習ではプロジェクト学習法を取り入れ、考える力、実践する力、判断する力、表現する力、コミュニケーション力が培われます。また課題研究や総合実習では課題解決能力や実践力が養われます。すなわち、農業教育では、大空と大地のもとで、友人や教師と共に汗を流して体験し、自然との触れ合いを通して、豊かな心が育ち、社会で役立つ力を身につけます。これはいつの時代にも求められる力であり、農業高校の不易の教育ではないかと思えます。

近年、グローバル化、情報化、少子高齢化に加えて、イノベーションが叫ばれるようになってきました。農業分野ではTPPへの対応、六次産業化、先端技術の導入、また教育では二十一世紀を生き抜くための力としての、基礎的・基本的知識・技能の習得に加え、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力や習慣の育成が求められています。

市場の変化

高島 正行さん
昭和四十六年度卒 農業科

同窓会の皆様方の日頃の御厚情に厚く御礼申し上げます。おかげさまで金沢中央卸売市場も今年で開設五十周年を迎えることとなりました。市場内の青果部門は、私共丸果石川中央青果(株)の卸一社と仲卸一七社(当初は三三社ありました)で構成されています。私共の会社は、金沢市の管理の元、農林水産省で決められた「市場法」という法律の枠内で日常の取引を行ない、野菜は県外産八五%、県内産八%。果実は七%の手数料を頂いて営業している民間の会社です。世間では当社に誤解を持たれている人も多いためです。安くたたいて買つて、それを高く売って儲けている会社と誤っている人も多いようです。「手数料商売」ですから安く販売するよりは、少しでも高く販売して、より多くの手数料を頂き、そして取扱量も多くなると成り立たない業態です。「農家側に立った」、「農家と運命共同体」の会社です。又、一番大事な決済機能については、販売後三日目に代金精算される、世界どこにもないシステムを持ち合わせています。現在、日本は少子高齢化による人口の減少、核家族化、単身化、世帯数の減少、途となり社会構造が大きく変化しています。当然、マーケットも縮小してきます。そんな中、市場の方も開設して五十年の間に大きく変化しております。一番の大きな変化は販売方

法が変つてきたということですが。販売が「セリ」中心から「相対販売」が中心になってきたことです。世間一般では、市場イコール「セリ」が代名詞になる位に、元氣な活気のある職場のイメージを持たれている方が殆どだと思います。現在ではセリ取引は、年間通して一割もなくなりまして。九割以上が相対取引になりました。原因は川上(産地)川下(消費地)の変化です。私が入社時(四〇年前)は八百屋さん中心の販売でした。当時五〇〇店、現在二〇〇店、しかし、S・M・G・M中心の販売となり、取引先がどんどん大型化してまいりました。最近では異業種のコンビニやドラッグストアも生鮮の販売に参入にボラダレスタ化が急激に進んでいます。対応していくためには、川上産地と協力し、あらかじめ一週間前、一週間前に商談を行ない、どの産地のどの商品、等階級、必要数量、価格の決定等、企画提案型の相対取引が必要となる訳です。そして、バイイングパワーに対応。売手市場から買手市場にならないように。又、売価ありきの価格形成とならないように。

その為には、川上情報を川下に流し、川下ニーズを川上に流し、市場は中間業としてコーディネーター役となります。今迄以上に営業力やマーケットtingを駆使すべき商になつてきています。これからの事から「産地を守る」ためにも「セリ」一辺倒の販売から「相対販売」へと取引方法が急激に全国的に変化した理由です。それだけ市場間の競争も激しくなり市場自体もつぶれる時代になつたということです。事実、今迄に何社も卸売会社がつぶれています。全国に我々同様の卸売会社は八五社あります。売上金額は何と上位三〇社で七〇%。四〇社

で八〇%シェアとなり、下位四五社で二〇%の取扱金額しかありません。いづつ市場が半分になつても不思議ではない現実が目の前に来ています。今後、生産者の減少が一番問題になつてきます。品物がなくとも市場の使命感がなくなりまして。当社も営業開発室を設け「新産地」、「新商品」の育成に動いており、異業種や石川県の耕稼塾金沢市の農業大学の在校生卒業生に、市場に来ていただき、市場の基本的仕組や各品目の出荷時期、出荷形態、規格等就農時には何を作ればいいのか? 自分で見て、考えて、現場でヒントを捕えてといった市場研修も行政と協力し実施しています。又、国地巡回、指導も行ない個の新しい農家を育て、より個性化し、生産から販売迄の一貫体制を目指して取組んでいます。実際、販売する我々も失敗したくない。させたくない。すごいプレッシャーがかかります。

今後共、学校の百四十年の伝統と歴史を生かし、互いに六星同窓会に御縁を頂いた同士として切磋琢磨し、顧客、消費者の心をガッチリ掴んだ農業に取り組み、リードして頂きたいと思ひます。

丸果石川中央青果(株)に在籍する人間として、皆様方の良きパートナーとなり、産地の伝達者としてベストな行動を取り、微力ではございますが全力を上げて、お手伝いをさせていただきます。

前後になりませんが同窓会の皆様のご更なる躍進を祈念申し上げます。



私の高校生活

食品科学コース三年 宮野ひかる

中学の頃は「農業」について知らないし、聞いても想像がわかなくあまり関心をもつていませんでした。けれども、高校卒業後は働きたいと考えていたので、就職率のいい翠星高校に入学することを決めました。

しかし、それが高校三年生になって、農業を学ぶために石川県立大学への進学が決まり、翠星高校にきたことが私自身を大きく変えることになりました。

一年次の農業と環境という授業で初めての作物の栽培を行いました。メロンや耐病総太りというダイコン、加賀野菜のひとつである源助大根を育てることができ、作物を栽培する際の大変さと同時に、おもしろさも感じるようになりました。

二・三年次の食品科学コースでは、さらに農業についての魅力を知りました。作物を栽培する生物科学コースに入るか迷ったのですが、パンなど作る実習にも興味もわき、食品科学コースを選択しました。このコースでは食品加工の実習だけでなく、食品に関わる実験を習うことができます。実験は最初は危ない試薬を使うのでおそろおそろしています。正しい器具の使い方が身について実験がおもしろいと思えるようになりました。一年次の後半から始まった課題研究では、トマトジャムの試作をテーマに、白山市の規格外トマトの有効利用を班で行いました。その中でジャムに加工する際にトマト

の栄養価が損われてしまうのではないかと疑問に思いました。そういう食品の機能性について興味を持ち、大学でもっと学びたい思うようになり、二年次に校内会長を務めました。他校の、クラブ員との交流や、大会では準備・運営、また農業鑑定競技に参加し、授業では学べないことも学ぶことができました。

翠星高校で、たくさんの経験から多くのことを学び、三年間がとても短かく感じました。農業高校出身を誇りに思い、大学でも努力を怠らず頑張りたいと思います。

夢に向かつて

生物科学コース三年 北村 彩

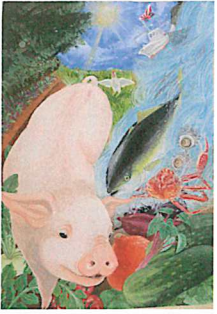
私は小学校に入る前から、ずっと絵を描いてきました。紙の上で自由に創造することができ、紙とペンさえあればどこでも楽しめるところが好きでした。両親は、私がずっと絵を描いている様子を見て、イラストのコンクールがあれば話題を持ちだしてきたり、絵画教室に通わせてくれたりと、積極的に協力してくれました。小学生の頃はよくコンクールに出品していて、入賞できなかった時にはすごくやしいと感じたことを今でも覚えています。以後、目指していた結果を残せなかった時でも落ちこまず、次の作品にとりかかれるようになったのは、このような体験をくり返してきたおかげなのだと思います。

高校に入学すると、私は美術部に入部しました。最初は入学した

ばかりの新しい環境ということもあり不安でしたが、部活内はとも明るい雰囲気でした。私たちが先輩を引っぱってくれる頼もしい先輩がいたり、一緒に支え合える友人ができたので、部も学校での生活も楽しいものになりました。

翠星高校の分野が農業校ということもあり、これに関連して美術部では「農林漁業まつり」の広報図案コンクールに参加しています。出品する作品が特選に選ばれると広報用ポスターとして使用されるので、私が部活動をする中で一番力を入れていたのがこのコンクールでした。ポスターを描くため資料を調べ

るうちに石川県の特産物についてや学校の授業を受けていても知らなかつたことが知れたことで、作品に描く対象をよく知ることが大切なんだと思いました。一年次の時は初めてで分からないなりに一生懸命仕上げ、そこでまさか入選するとは思っておらず嬉しいながらにとでもおどろきました。さらに二年次には準特選をいただき、来年も頑張つてもう一つ上の賞を目指したいと思いました。そして三年次は過去に入選したプレッシャーもあり、今まで以上に模索し仕上げました。結果は二度目の準特選に選ばれました。望んでいた特選には選ば



平成27年度 石川の農林漁業まつり広報図案コンクール作品

とは叶わなかつたけど、この三年間で結果を残すことができたので意味のある高校生活だったと思います。

私は二年次まで就職をする予定でした。しかし、自分の好きなことをあきらめきれずに三年次に入ると、卒業後は大原専門学校に進学し、イラストレーションを学ぶことを決めました。これからは進学先で勉強し、将来の夢に近づくために頑張つていきたいです。

全国大会優秀について

食品科学コース二年 岩見 拓海

私は平成二十七年十月二十一日、二十二日に群馬県で行われた、「第六十六回日本学校農業クラブ連盟全国大会」に参加してきました。そして、その中のプロジェクト発表食料・生産の区分に出場し、見事に優秀賞という結果を残すことが出来ました。これも、一年間コツコツと毎日活動を行ってきた、努力の表れだと思えます。

私達の研究発表内容は、野々市市で栽培されているヤーコンという野菜の加工品開発についてでした。研究のきっかけは、野々市市からヤーコンの加工品を開発してほしいと依頼があったことです。この時は、まだ私達は入学をしておらず、先輩方が様々な加工品をつくり、どんな風に加工すれば良いか、活動していました。そして金沢の郷土料理である、大根寿司からヒントを得て、ヤーコン寿司を作り出しました。

私達が入学してからは、ヤーコン寿司の製品化へ向けて、様々な工夫や基礎的なデータを得るために硬度や酸度等の実験データを集めたり、学校でできない実験は、金沢工業大学へおねがいして分析させていただきました。他にも、通常は捨ててしまうような小さかつたり、細いヤーコンを利用して、ヤーコンジャムやヤーコン甘酢漬けなどの製品開発を行ってきました。

野々市市や農家さんからの協力もあり、活動が大変充実しただけでなく、私達にとつて良い経験になったと思います。

これらの活動をまとめ、全国大会での発表に臨みました。夏休みの間、毎日行ってきた練習を自信にして、チームが一致団結し、良い発表会ができたと思います。その結果、本校では十六年ぶりとなる優秀賞をいただくことができました。私達の活動が全国に発信されることにより、野々市市のヤーコンを知ってもらおうことができ、地域活性化への手助けになったと思います。

これからもヤーコンの普及活動を継続し、来年度は全国大会で最優秀賞をいただけるように、日々の活動にはげみたいと思います。



第66回日本学校農業クラブ全国大会 群馬大会 平成27年10月21日(水)・22日(木) 16年ぶりの全国大会優秀賞

創立百四十周年記念について

明治九年に農業勸業場を開設して以来様々な改編をし、平成十二年に翠星高校として現在まで二〇、〇〇〇名以上の卒業生を送り出してきてきました。

そして来年度(平成二十八年度)本校は創立百四十周年を迎えます。そのようなことから来年度の九月には創立百四十周年記念行事を企画しております。同窓生の皆様には今年度からスタートしている事業の一つである「同窓生名簿作成に多大なご協力、ご尽力をいただき本当にありがとうございます。名簿完成も間近となり、もうしばらくで同窓生の皆様にお届けできるかと思っております。先輩、後輩の追憶の資料として、また同窓生の親睦に充分活用されることを期待しています。

今後とも来年度の「創立百四十周年記念」を大いに盛り上げたく、同窓生の皆様には本校発展のため、今後とも一層のご指導、ご支援を賜りますようお願いするとともに、皆様のご健勝とご活躍を祈念しております。

1 概要

明治九年農業講習所として発足して以来、幾多の変遷を経て百四十周年を迎えられたことを祝う。

平成十二年度に少子化や国際化、環境問題や情報化など社会の変化や技術革新に対応するため、抜本的な学校改革に取り組み、全国に先駆けて単位制農業高校として翠星高校を立ち上げて十五年目を迎える。現在、更なる社会に対応した翠星高校の改革に取り組んでおり、また、日本で最も歴史と伝統を持つ農業高校であることを広報、宣伝する大きな機会とする。

2 期 日 平成二十八年九月二十二日(木) ※秋分の日

3 場 所 白山市松任文化会館 ※懇親会場：白山グランドホテル

4 事業内容 (1) 記念式典

(2) 記念講演

(3) 記念事業 (記念誌発刊など)

(4) 名簿作成

※作成協力業者 (株)サラト

本社：兵庫県姫路市北条宮の町一七二

電話：〇七九一二八四

一三二八〇



石川県立松任農学校校舎

支部だより

関東支部

昭和三十六年度卒

東 建路

関東支部第十九回総会は、十一月十四日(土) J R四ツ谷駅前の主婦会館プラザエフに於いて母校より鷺澤教頭、同窓会本部より長瀬先生のご参加を得て開催致しました。

司会に日向理事を選任、総会に先立ちこの一年間の物故会員の黙とうの後、村松支部長のご挨拶と教頭先生の母校の近況の報告を賜りました。

次に東幹事より、過年度の事業決算の報告(会議活動は総会、役員会と三役会(二回))。親睦活動は気軽に一杯の会、歩く会(春は飛鳥山公園、秋は横須賀軍港めぐり)。外部活動は、いしかわ県人祭、(いしかわ百万石の集い)と新年度の事業、予算案並びに寺門監事の監査報告を行い、それぞれ満場一致で承認可決しました。

引続き規約改正案と役員任期満了により、支部長に小林好晴、副支部長に河田憲一郎と越村進の三氏を選任。前支部長に長年の労をねぎらい新支部長より花束の贈呈を行い総会を終了。日向理事の司会



で前支部長の乾杯の発声により懇親会の宴に、三月より近くなった故郷を肴に佳境の中、加藤理事の発声で母校の発展と会員のご健勝を祈念して散会となりました。故郷の味、円八のあんころ餅をお土産に帰路に着きました。

関西支部

昭和二十九年度卒

北本 幸雄

平成二十七年総会を、十月十八日正午より、五年間お世話になつて「和楽」中央区南船場で、母校より東出和夫校長、寺田修一

教諭の御参加をいただき、開催することが出来ました。私めの拙い挨拶のあと、校長先生の御祝辞と寺田修一教諭から母校の近況を戴きました。続いて今回の議案についての審議、そして質疑応答の後承認可決致しました。次に山岸良子副支部長の乾杯の音頭で支部の発展と皆様の健康を祈念し、懇親会

に入り、母校の情報、会員皆様の情報交換など活発な総会となりました。先生方から頂戴しました母校の報告の一部に学生達の、様々な活動が記されています。ほほえみさと活発さが目に浮かんでくる様です。我々も負けずにとの思い



が、増して来る様な気持ちになりました。時の流れでしょうか新しい会員の加入もなく寂しい限りですが、学生達に負けないように、支部の発展を計りたい気持ちです。

東海支部

昭和三十六年度卒

西村 嘉紘

六星同窓会東海支部は、さる五月三十日(土)ホテルサンルートプラザ名古屋にて、十一時より開催されました。

来賓として、中部石川県人会副会長 川端俊朗様、石川県立翠星高等学校 校長 山崎恵様、事務局の寺田修一様のご出席を頂きました。

皆様の心温まるお言葉を頂戴し本当に有難うございました。今後共、支部発展のため少しでもお役に立てるよう努力致します。皆様の御指導ご協力のほど宜しくお願い致します。

昨年は、リニア中央新幹線、燃料電池自動車FCV、国産初のジェット旅客機MRJという、日本の未来を創るプロジェクトが大きく動き出した年でした。今年五月には、三重県で伊勢志摩サミットが開催されます。豊かな愛知で益々の発展を望みたいものです。



金沢支部

昭和五十年年度卒

若林 英世

金沢支部の平成二十七年総会は、母校より山崎校長先生、寺田先生のご臨席を賜り、七月四日(土)金沢都ホテルに於いて出席者三四名で開催いたしました。

総会は大蔵会長兼支部長の開会の挨拶があり、山崎校長先生にはご祝辞を賜り、母校の現況報告等についてもお話がありました。ご兩名に於いては来秋の母校創立百四十周年記念事業について成功に導くよう特段のお願いがありました。総会議案については、慎重審議のうえ満場一致で可決されました。その他の議案について創立百四十周年記念事業についての案を寺田先生より詳細に説明されました。

総会後の講演会には昭和四十六年農業科卒の丸果石川中央青果(株)監査役高嶋正行氏を講師に迎え、最近の市場情勢と題して講演を賜りました。日本各地の生産者とともに農産物の開発や食味の改良に努めており、消費者の多様なニーズに対応するのが市場の役割と力説され、大変有意義な講演でありました。

事務局だより

《本部》

会計監査

五月十五日(金)本校校長室

理事会

六月十三日(土)

グランド

ホテル白山



懇親会に移り、来秋の創立百四十周年記念事業の成功を誓い、母校として六星同窓会の益々の発展と会員各位のご健勝を祈念し散会いたしました。



《支部総会》

【金沢支部総会】

七月四日(土)金沢都ホテル

山崎校長 寺田教諭出席

【関西支部総会】

十月十八日(日)日本料理和楽

山崎校長出席 寺田教諭出席

【東海支部総会】

五月三十日(土)

ホテルサンルートプラザ名古屋

山崎校長、寺田教諭出席

【関東支部総会】

十一月十四日(土)

主婦会館プラザエフ

鷺澤教頭、長瀬実智教諭出席